

当科における深頸部感染症例の検討

有馬 忍 今西 義宜 坂井田 寛
湯田 厚司 竹内 万彦 間島 雄一

三重大学耳鼻咽喉科

頸部にはいくつかの結合織の間隙があり、その間隙に感染による炎症が生じると、深頸部感染症が発生する。抗生物質の発達した今日でも、縦隔膿瘍や敗血症を併発すると死亡することがあり、特に高齢者や、基礎疾患に糖尿病があると致死的高くなる。今回、平成4年から平成15年までの12年間に、当科で入院加療を施行した深頸部感染症例につき、一部、扁桃周囲膿瘍例と対比し臨床的検討を行った。深頸部感染症71症例は男性40歳台、女性は70歳台に多かった。一方、扁桃周囲膿瘍44例は30歳台の男性に多かった。深頸部感染症例は扁桃周囲膿瘍症例に比べ、高齢者や糖尿病の合併が多かった。重症例は7例あり、うち縦隔膿瘍が6例あり、死亡例2例は高齢の女性であり、うち1人に糖尿病があった。深頸部感染症を発症しやすい要因として、高齢であること、また誘因として齲歯、異物などが認められたが、特に糖尿病は増悪因子であることが再確認された。